

第 40 回 CIGRE パリ大会報告

日 時： 2004 年 8 月 29 日（日）～9 月 3 日（金）

場 所： パリ市国際会議場

参加人数： 世界 70 カ国 2,298 名（日本からは 110 名）

記念講演： IEA クロード・マンディル氏「電力市場改革の有益性と挑戦－送電の主要役割」

論文数： 日本からは 23 篇であり、フランスについて世界 2 位

展示（EXPO 2004）：

81 社が参加し 5 日間開催された。日本からはティーエム・ティーアンドティー、日本 AE パワーシステムズ、NGK の 3 社が出展し盛況であった。

本部役員選出：

David Croft 会長と De Pauw 財務担当役員が今回のパリ大会で退任し、新しい委員長はカナダ HQ TransEnergie の Yves Filion 氏、トレジャラーは豪の Peter Tyree 氏に代わった。

専門部会（SC）の技術討論：

各 SC が単独または合同でいくつかの討議議題（優先議題と称す）を設定し、この議題に対応した論文をもとに意見を述べる（Contribution）方式を採用している。誰でも自由に参加し意見を述べるができる。この内容については、電気学会 B 部門誌 2005 年 2 月号の「学界情報」で報告する。

パネル、ワークショップ：

パネルセッションは、1) オープニングパネルとして「電力供給セキュリティ」、2) 系統大擾乱、3) 電力技術者教育（EPEE）の 3 つのパネルが開催された。また、C1（系統計画と経済）、D2（情報システムと電力通信）でワークショップが開催された。

AORC 会議：

欧米や先進国中心の活動に加えて、世界をいくつかの地域に分け、各地域特有の技術課題についての討議をもっと活発化する Region が運営されている。日本はアジア・オセアニア地域での貢献が期待されており、今年もパリ大会に併せて第 6 回 AORC（Asia-Oceania Regional Council of CIGRE）会議を開催した。オーストラリア、マレーシア、韓国、インド、日本の国内委員長、幹事が参加し年次報告、今後の進め方を討議した。今回で AORC

議長はマレーシアの Dato' Pian Sukro 氏が 2 年の任期を満了し、新たに韓国の Prof. Koo 氏が選出された。

日本主催パーティ：

今回で 6 回目となるカクテルパーティを、日本大使館隣の Salons Hoche にて開催した。参加者数は、海外約 130 名、日本人約 90 名程度と前回より増加した。Croft 会長夫妻、Bolza 技術委員長、Kowal 事務総長夫妻、各国の本部理事などの要人を、川村委員長夫妻、関根顧問夫妻をはじめ日本からの参加者で出迎えた。

以 上